

「住んでよし・訪れてよし」の観光地域づくり

一般社団法人そらの郷（美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町）

理事長 松浦 敬治

○教育・研修旅行の体験受入、農家民泊、体験観光の開発

○観光プロモーション、観光による地域づくり

URL: <https://nishi-awa.jp/soranosato/>

○ 取組内容

世界農業遺産認定「にし阿波の傾斜地農耕システム」を背景に、持続可能な観光地域づくりを推進し、地域再生や活性化に取り組む。

- ・地元農家（受入家庭）との交流ができる各種体験コンテンツの開発。
- ・都市部の中高生を対象とした体験型教育旅行の受入れ。
- ・農山村での体験を組み込んだインバウンドツアーの開発、受入れ。

○ 取り組みに至った経緯

体験型教育旅行の受入組織として、都市と農村の交流による地域活性化に取り組んだことがきっかけ。

にし阿波地域は、平成20年「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」、平成28年「SAVOR JAPAN」、平成30年「世界農業遺産」の認定を受け、独特の農法、景観、伝統、食文化を体感できる集落が点在している。この伝統ある農業集落の活性化を目的に、行政、観光事業者、農業者、地域住民等と連携し、観光地域づくりを担うこととなった。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

体験型教育旅行は、子どもたちが食や文化、農山村の暮らしを宿泊体験することで、ふだん味わえない「素敵な田舎」を体感できるものであり、受入家庭の確保と受入体制の強化が必要である。

- ・定期的な説明会や研修会（衛生、防災）の開催や、行政と連携し新規受入家庭の開拓等を行っている。
- ・子どものアレルギー等、配慮が必要な事項は、事前に把握した上で対応している。また、指差し会話カードの配布やガイド研修会を開催し、インバウンドに対応。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・平成30年度「地域づくり表彰」全国地域づくり推進協議会会長賞
- ・オーライ!ニッポン大賞「内閣総理大臣賞」(R2)
- ・第10回「ディスカバー農山漁村の宝」中国四国農政局選定 (R5)

○ 今後の展望(将来に向けて)

国内教育旅行の閑散期対策として、海外からの「訪日教育旅行」の受入れを拡大するため、海外向けのプロモーションに取り組む。

伝統農法の観光コンテンツ化を更に推進し、農業者の所得向上や、訪れた人がにし阿波に愛着を持てる観光地域づくりに取り組む。



野菜の収穫体験（農林漁家民宿）



傾斜地での伝統的な農作業（ツチアゲ体験）

理事長からのコメント

にし阿波地域で古くから継承されてきた独自の「伝統農業・農文化」を、ぜひ体感してください。



松浦 敬治氏

なると金時を食べたブランド豚で6次産業化

有限会社NOUDA（阿波市吉野町）（板野郡上板町）

代表 納田 明豊

○「阿波の金時豚」の飼育・食肉加工・販売を一貫して自社で行う

【shop&officeアグリガーデンURL】 <https://www.kintokibuta.co.jp/>



徳島の季節の移ろいに成長を委ね、
金時芋と地産米、吉野川の水を糧に。

牧場外観



店舗外観



豚舎



ブランドサツマイモなると金時



加工



堆肥

○ 取組内容

- ・ 自社農場で飼育した豚の食肉加工から販売までを自社店舗「shop&officeアグリガーデン」で行うことで、高品質の商品を提供。
- ・ 徳島県ブランドのかんしょ「なると金時」を与えて育てた「阿波の金時豚」として商品登録しブランド化。
- ・ 「みどりの食料システム戦略」を推進するため、糞尿を発酵させ養分を凝縮した高品質な堆肥を製造し、新規就農者を含めた地域の耕種農家4戸に供給。
- ・ 地元の小学校へ、阿波の金時豚の提供や食育授業の実施。

○ 取り組みに至った経緯

平成18年に現代表が養豚会社を継承し、平成25年に現社名に変更。経営継承当時は市況での価格が頭打ちとなっていたため、利益率の向上を目指したことがきっかけとなった。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

他県ブランド豚は、高額取引されているが、「美味しいけど高い」等の市場評価のため、需要が伸びにくい状況であった。

- ・ この状況に対し、平成25年に「阿波の金時豚」を商品登録し、ブランド化するとともに、自社農場で飼育した豚の食肉加工から販売までを自社店舗で行うことで、比較的安価に高品質の商品を消費者に提供することを可能とした。
- ・ また、育成した豚の品質を第一と考え、食肉加工技術を学び、常に品質改善に努め、「良き商品と求めやすい値段」を武器に報道関係機関へのPR活動を行い、ブランド品として認知に取り組むことで、固定客が徐々に増加した。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・ 全国優良経営体表彰 販売革新部門 農林水産大臣賞 (R5)
- ・ 第5回とくしまエシカルアワード (R5)

○ 今後の展望(将来に向けて)

畜舎(繁殖舎、育成舎、肥育舎)を増設し、売上げを拡大。新たに堆肥部門と耕種部門を設置し、ブランド堆肥としての販売や、葉物野菜の生産・出荷に取り組む。

経営者からのコメント

肉質を落とすような量産を避け、地場産業との連携で地域活性に努めながら、確実に美味しい金時豚を皆さんにお届けしています。



納田 明豊氏

カテゴリ

畜産

加工・流通

6次産業化

その他

世界中の食卓に笑顔をお届けする

鎌田醤油株式会社（坂出市本町）

代表取締役社長 鎌田 武雄

○1789年創業、1965年に「だし醤油」を開発。日本食の魅力・伝統的な食文化を諸外国に発信するため、積極的に輸出に取り組む。

URL: <https://corp.kamada.co.jp/>

○ 取組内容

- ・2001年、北米への輸出を開始。現在は、米国、中国、台湾、ベトナムなど20カ国・地域にだし醤油、低塩だし醤油、にんにくだし醤油などを輸出。米国、オーストラリアに現地法人を設置。
- ・諸外国のニーズに対応するため、ISO9001、HACCP、FDA認証を取得。
- ・米国での通信販売や越境ECを活用し、海外の消費者への直接販売も実施。また、容器は地球環境に配慮した紙パックを採用。

○ 取り組みに至った経緯

- ・海外に赴任している顧客からの当社商品を求める声に応じて輸出を検討。2001年、カマダ・カナダを開設し現地での通信販売を開始。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

- ・輸出先国ごとに異なる規制に対応するため、食品安全マネジメントシステムの国際認証（FSSC22000）を令和7年までに取得予定。
- ・容器に採用している紙パックは、賞味期限は十分長いものの、海上輸送で納品までに時間を要するため、製造後速やかに出荷・輸出。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・輸出額：5,400万円（2023年度）
- ・輸出国（地域割合）：米国（53%）、中国（11%）、韓国（10%）
- ・令和5年度輸出に取り組む優良事業者表彰中国四国農政局長賞

○ 今後の展望（将来に向けて）

- ・輸出先国それぞれのニーズに対応した商品開発を推進。
- ・現地での試食販売や催事を展開し、海外におけるカマダ商品の認知度向上を図る。
- ・インドネシアなどイスラム市場への輸出を念頭に置き、令和6年度中にハラール認証を取得。



紙パック商品の製造の様子



米国小売店でのデモ販売の様子

経営者からのコメント

世界の食卓で愛される「鎌田のだし醤油」を目指し“古いけれども新しい”の精神で、今後も全社一丸となって新たな挑戦を続けていきます。



鎌田 武雄氏

香川県ブランド「オリーブ牛」の輸出拡大

株式会社カワイ（高松市国分寺町）

代表取締役社長 河合 伸一郎

○1926年創業、食肉販売、食肉処理、そうざい・ソース類製造を実施。

○2016年から香川県ブランド牛であるオリーブ牛の輸出に取り組む。

URL: <https://kawai meat.com/>

カテゴリー

輸出・認証

○ 取組内容

- ・2016年から米国やシンガポールへ輸出を開始。輸出国の高級料理店などで、高級部位（サーロイン、リブロース、ヒレ）のカットプレゼンテーションや料理メニューの提案等を行うなど小ロットかつニッチな市場向けに高価格帯販売戦略を推進。
- ・輸出に向けきめ細やかな対応が可能となるよう、海外に拠点を置く食肉を扱う商社や専門店と連携し物流を確保。



○ 取り組みに至った経緯

- ・2015年、ニューヨークで開催されたSummer Fancy Food Showに讃岐牛・オリーブ牛振興会、行政等とともに参加し、オリーブ牛のカットプレゼンテーションや特徴を活かした料理メニューの提案が好評を得たことを契機に、現地レストランや食肉専門店等との信頼関係を構築し、輸出を軌道に乗せた。



農家との信頼関係による妥協しないおいしさを追求

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

- ・オリーブ牛の認知度を向上させるため、輸出開始以降3年の年月をかけて、オリーブ牛という商品のすばらしさに共感を得るため、ストーリー（オリーブ絞り粕の飼料化・オリーブ牛の堆肥をオリーブ畑に還元等）として根気強く説明。
- ・物流の効率化を図るため、アジア向けと北米向けとでそれぞれ商流を1本化（独自のブランディング）し輸出を進めた。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・輸出額：4,000万円（2022年度）
- ・輸出国（地域割合）：米国（83%）、アジア地域（シンガポール、香港等）（17%）
- ・令和5年度輸出に取り組む優良事業者表彰中国四国農政局長賞

○ 今後の展望（将来に向けて）

- ・更なる輸出拡大のため、讃岐牛・オリーブ牛振興会をはじめ香川県やJA等と連携し、新たな輸出国の確保を目指す。
- ・各国に根付いている調理法を念頭に置き、それに合うオリーブ牛の部位や料理メニューを提案していく。

経営者からのコメント

ヘルシーミートライフのもとに、人々が『食』をもっと自由に楽しめる、多様なライフプランをこれからも創り出していけたらと思っています。



河合 伸一郎氏

地域課題を農業で解決！ 農も、福祉も、地域一丸

百姓百品グループ（西予市野村町）

会長 和氣 數男

○地域の農産物を集荷し、松山市内へ配送・販売

○耕作放棄地を借り受け青ネギ栽培、作業を福祉施設へ委託



野村本店（直販所）



栽培中の青ネギ



青ネギ出荷作業をされる、野村福祉園の皆さん

カテゴリー

農地集積

加工・流通

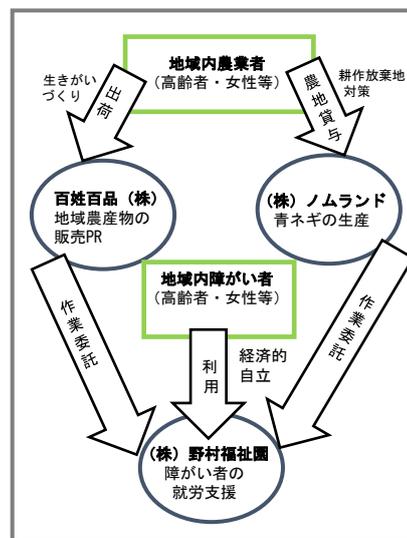
農福連携

地域活性化

○ 取組内容

百姓百品グループは、地元の農家が栽培した農産物等を、直営の農産物販売所や松山市内の産直販売所で販売する「百姓百品（株）」、耕作放棄地等を利用し、青ネギ栽培・販売を行う「（株）ノムランド（旧（株）百姓百品村）」、（株）ノムランドで栽培される青ネギの出荷作業等を請負う、就労継続支援B型作業所である「（株）野村福祉園（レインボーアグリ）」を中心に、「地域の課題を農業で解決する」をミッションにグループ内で連携して事業に取り組んでいる。

地域及びグループ連携イメージ図



○ 取り組みに至った経緯

地域の高齢化、人口減少の中で「なんとか地域に活力を」と1998年に生産者の組合をつくり、直販所を始めた（後の百姓百品）。また、地域から耕作放棄地をどうにかしてほしいとの相談があり、2008年に「百姓百品村」を設立。面積拡大を図るため人材確保が重要となり、農福連携に着目し、2013年に「野村福祉園」を設立した。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

松山市内で直販をはじめた当初は、生産計画を立てずに思い付きでスタートしたこともあり苦労もあったが、スーパーのインショップとなってからは、軌道に乗り始めた。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

令和5年度農林水産祭むらづくり部門 天皇杯

○ 今後の展望(将来に向けて)

青ネギ栽培は、耕作放棄地の解消から始まった事業。これからも地域を守っていくためにも、より“強く”なっていくことが重要だ。

人口減少・高齢化が進み、担い手不足が大きな問題となる中、野村福祉園の存在価値は大きい。これからも地域の大きな戦力として活躍してほしい。

事業者からのコメント

“いなか”にとって“農業”は大きな産業。

そんな産業を支える存在として、これからも邁進します。



和氣 數男 会長

農福連携の活動に高校生が奮闘中

愛媛県立伊予農業高等学校生活科学科食物班（伊予市下吾川）

教諭 藤川 幸恵

○生活科学科は農業科目と家庭科目を中心に実践的に学習し、地域貢献を目指す。



カテゴリ

農福連携

地域活性化

○ 取組内容

地方自治体や地元企業等と共に地域振興を図りながら、農福連携を通して、共生社会の実現に取り組んでいる。

広島県の特別支援学校と連携した夏野菜を使ったお菓子の考案、福祉施設や農福連携を実施する企業と連携し、障害者や高齢者と協同した農作業、カフェ運営、商品開発を実施。

廃棄されている未利用魚を使った料理の考案等、地域食材をPRすることで地域の活性化につなげている。

○ 取組に至った経緯

伊予市の高齢化率は34%を超えており、全国平均(約29%)を大きく上回っている。また、伊予市は令和3年度から8年度までの6年間、伊予市第3次障がい者計画を策定し、「共生社会の実現」を目指している。同校は、その考えに共感し、伊予市唯一の高等学校として、それらの問題解決を目指し活動を開始した。

誰もが活躍できる地域づくりを目指し、「#伊予農福連携プロジェクト」を生徒自ら立ち上げ、農福連携に取り組む。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

「えひめ地域づくりアワード・ユース2023」で最優秀賞を受賞したことにより、地元の伊予銀行が仲介役となって、多くの企業と連携をすることとなった。

取組は多岐にわたるが、連携先と連絡を密に取ることで、商品開発等の取組をスムーズに行うことができている。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・えひめ地域づくりアワード・ユース2023 最優秀賞
- ・ノウフク・アワード2023 チャレンジ賞
- ・令和6年度愛媛県学校農業クラブ連盟第1回各種発表県大会 最優秀賞
- ・第75回日本学校農業クラブ四国大会 最優秀賞

○ 今後の展望(将来に向けて)

同校は、農福連携の活動を通じて、誰もが活躍できる地域づくりを目指している。「農福連携等応援コンソーシアム」へ入会し、専門家や企業と交流しており、農福連携の6次産業化に向け、今後の活動を計画している。



上：ノウフクJASきくらげ選別作業
下：ノウフクJASきくらげのコロッケ

担当教諭からのコメント

今年度は「#伊予農福連携challenged」というテーマで農福連携を通じた共生社会の実現を目指しています。



藤川 幸恵氏

有機グアバでノウフク・産官学連携・SDGs・6次産業

一般社団法人エンジェルガーデン南国（南国市）

代表理事 西川一司

○自社農園で育てたグアバで農産物加工品等を製造・販売

URL: <https://www.nishigawa-nouen.com/>

カテゴリー

担い手

園芸

6次産業化

地域活性化



○ 取組内容

耕作放棄地を転用した有機JAS認証の自家農園にて農薬や肥料、除草剤を一切使わず究極のオーガニックといわれる自然農法で、高知で半世紀前から愛されてきた『グアバ果樹』を栽培。農福&産官学連携で美味しく機能性のあるグアバ製品を自社工場で加工、全国に向け卸販売も行う。

○ 取り組みに至った経緯

高血圧症を克服し減量にも成功したある病院の看護師長さんを通じ出会ったグアバ果樹。高知大学土佐FBC（食品産業を担うリーダーを育成・創出する教育プログラム）にて機能性の高さを検証、学会発表も行った。特別支援学校の教員だった代表が一般の企業で働きづらい子供たちのために就労支援B型事業所を開所、栽培から加工、販売まで携わる。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

初めての農業だったので、どこから手を付けていいのか分からなかったが、地元のグアバ農家さんを紹介してもらったり、無農薬リンゴを青森で栽培している専門家の方などをお招きし、無農薬無肥料で除草剤も一切使用しない自然栽培を習った。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・平成27年度高知県地場産業大賞 奨励賞
- ・サステナブルコスメアワード2019 審査員賞
- ・ソーシャルプロダクツ・アワード2021ソーシャルプロダクツ賞
- ・サステナアワード2021伝えたい日本の“サステナブル”AgVenture Lab賞
- ・高知を贈ろうギフトコンクール2023 15選
- ・第10回「ディスカバー農村漁村の宝」中国四国農政局奨励賞(R5)

○ 今後の展望(将来に向けて)

- ・利用者の月額工賃の向上
(商品の売上利益はすべて利用者の工賃となります)
2016年5月開所時→16,000円 2024年現在→37,500~87,500円
- ・障害者受け入れ人数を増やす
2016年5月開所時→3名 2024年現在→30名
- ・雇用創出:2016年5月開所時→3名 2024年現在→10名
- ・農業と福祉の連携 ・有機自然栽培の普及 ・移住者促進
- ・新規就農者増加へ貢献 ・エビデンス(機能性表示など)
- ・産官学連携の商品開発(官は高知県工業技術センター等)
- ・海外への高知県産グアバの輸出



地元高校生と商品の共同開発に取り組



JICA研修の受け入れ

代表者からのコメント

自然の恵みに感謝し、地球環境に優しい農法で人々の健康と美容に貢献するとともに、働くことの幸せを感じ、自立できる環境をこれからも目指していきます。



西川 一司氏

村をブランド化し魅力を全国に発信した馬路村農協

馬路村農業協同組合（安芸郡馬路村）

代表理事組合長 北岡 雄一

○ゆず加工品・化粧品の開発・製造・販売

URL: <https://www.yuzu.or.jp/>



ゆずドリンク等を製造している「ゆずの森加工場」



ゆず加工品の商品

○ 取組内容

青果出荷が困難なゆずを有効活用するためドリンク・ポン酢しょう油等を製造し、販売。馬路村をまるごと売り込む戦略でブランド化し、全国のファンづくりに取り組んでいる。

また、ゆずの果汁から皮、種まで加工し、残滓は村内で堆肥化するなど村独自の有機循環農法も行っている。

○ 取り組みに至った経緯

村の主体産業であった林業の衰退を受け、新たな産業づくりとしてゆずに注目し、青果販売ではなく加工品に特化した販売を行うことで付加価値を付け、組合員に還元する形を実現した。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

大手メーカーとの差別化を図る一方で販売力が低く、認知もされていなかった時代には物産展に出向き対面販売より消費者と直接結びつくことで販路を少しずつ拡大していった。

また、ゆず加工品の販路が拡大していくにつれ、原料のゆず確保のため組合員とともに園地の拡大を行い生産量の増加を図った。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・第52回日本農業賞「食の架け橋部門」大賞 (R5)
- ・令和5年度農林水産祭多角化経営部門 天皇杯

○ 今後の展望(将来に向けて)

過疎地の中で産業を継続し、解決できない課題と共存していく次の地域モデルの創生に取り組んでいく。



「馬路村」を売り出す販促ポスター

組合長からのコメント

小さな農協ではありますが応援してくださる皆様のおかげで独自の取組が継続できました。今後も村と組合の維持発展に務めます。



北岡 雄一氏

カテゴリー

担い手

6次産業化

地域活性化

その他

【お問合せ先】

中国四国農政局企画調整室

〒700-8532 岡山市北区下石井1-4-1

TEL 086-224-4511（代表）

本資料は中国四国農政局ホームページに掲載しております。

<https://www.maff.go.jp/chushi/assess/wpaper/index.html#meguji>